

理事の西淳二氏が、東京理科大学九段校舎において、下記の出前講座を実践されました。

**主催：温故創新の会「トンネル・地下空間部会」、NPO ジオテクチャーフォーラム**

**演題：「トンネル・地下空間利用の現状と未来展望」**

**日時：2007.7.17**

**目次&内容：**

- 1．海外における地下空間利用の例、地下空間利用の4つの方向・・・トンネル以外にも様々な地下空間の使い方、利用の仕方があることがわかる。
- 2．土木学会・地下空間研究委員会（土木学会誌2007.7月号）・・・計画、防災、心理、維持管理の4つの小委員会活動と毎年1回「地下空間シンポジウム」を開催。
- 3．静岡市宇津ノ谷トンネル、四世代のトンネル（明治、昭和初期、昭和中期、平成）・・・トンネルの掘削技術・工法の進歩によって、長さ、断面積の大きなトンネルが造れるようになってきた。その延長に、首都高速中央環状新宿線がある。
- 4．韓国・地下鉄火災事故（放火） ガソリン2リッターを撒いてライターで着火・・・地下階からの避難路は煙の動線と同じ動線となると、逃げ遅れると大変（地下街における2方向避難路の確保）。トンネルを通過して隣接駅へ避難して助かった人が10名？
- 5．首都高速道路、中央環状新宿線2枚・・・ランプ部の設計・施工に新しい概念が必要であった。周辺住民への騒音、大気汚染対策（煙突：都市景観？）
- 6．制度が変わる、大深度地下・・・大深度地下使用に係わる特別措置法。
- 7．地下河川、神田川・環状7号線地下調節池・・・都市部河川の拡幅用地の取得困難性に対応。東京都の基準：時間降雨量50mm/hr から75mm/hrに。
- 8．小田急線代々木上原駅～梅ヶ丘駅間の連続立体交差事業4枚・・・コスト差から一般には高架方式が採択されているが、長野電鉄長野駅前、MM21みなとみらい線、小田急線の一部区間（標記の区間）京王線調布駅付近などではコスト差を克服する形で地下方式が採択された。

9. 北京で開催された国際地下空間学会大会3枚(2006.11.18~19)・・・中国各地方都市において地下鉄計画にあわせて、地下鉄駅を中心としての地下も含めた再開発ガイドプランの作成がブーム。上海万博にも地下をテーマとした展示体験空間が出来そう。
10. 第19回コンサルタントシンポジウム「市民と共に考える、社会資本整備と市民合意形成」のご案内(2007.9.22)

**結論：**

- ・ 都市部において、地下でもかまわないモノ(交通、駐車場、物流、共同溝、エネルギー等)を地下化することで、地上に「スペース」が生まれる。
- ・ 鉄道地下化において、一般的にコスト差が2.5倍といわれているので、それを超える説得材料が必要(納税者や利用者への説明、補助金をもらうための説明など)。
- ・ 用地の問題(用地費、用地取得に要する時間や説得性、絶対的にスペースが無い場合・・・)を解決できる可能性がある。
- ・ 人間が地下に入る場合の安全性確保、デザインなどによる心理的負担減少への工夫。

**出前講座の様子 (写真奥の中央が西淳二氏)**

